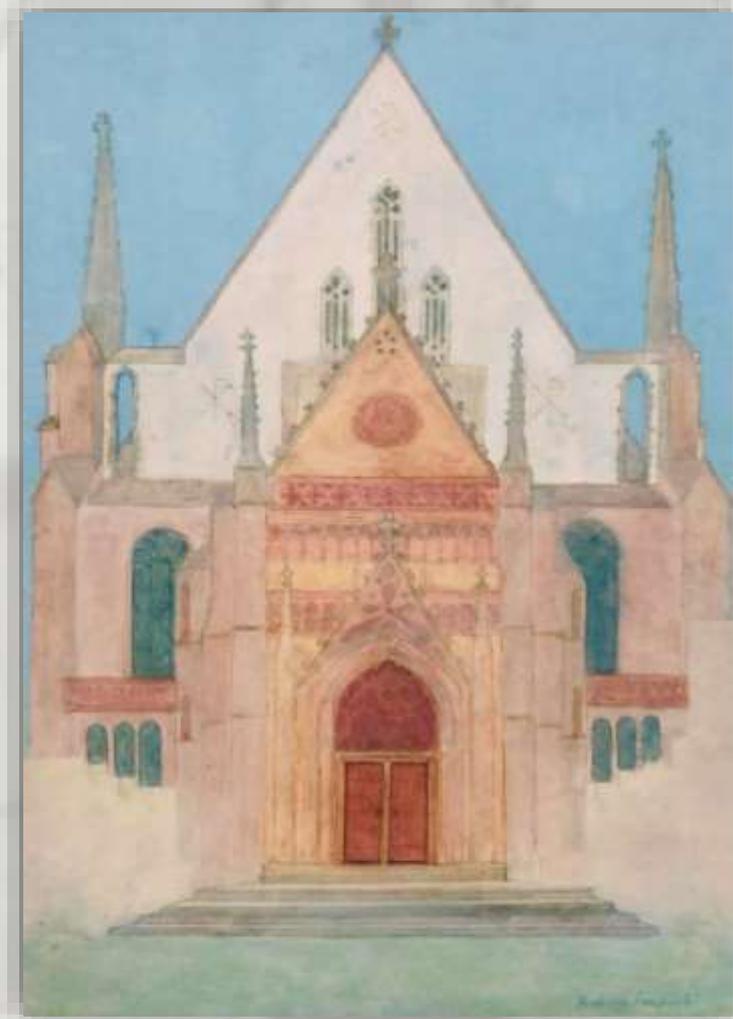


浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブル演奏会

Johann Sebastian Bach

ミサ曲 短調 BWV232

～浜松と豊橋でのバッハ演奏 50 周年記念～



2023年 4月22日 (土)
アクトシティ浜松 中ホール

主催：浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブル
助成：公益財団法人静岡県西部しんきん地域振興財団
公益信託チヨタ遠越準一文化振興基金
後援：静岡県・公益財団法人静岡県文化財団
浜松市・公益財団法人浜松市文化振興財団
豊橋市・公益財団法人豊橋文化振興財団
浜松市合唱連盟・公益財団法人浜松交響楽団
静岡新聞社・静岡放送 中日新聞東海本社

ご挨拶

浜松と豊橋にバッハ演奏の種が蒔かれて50周年になります。1973年3月21日、奇しくも大バッハの誕生日に、私達の前身団体といえる合唱団が誕生しました。そして1985年のバッハ生誕300周年を機に、現在の浜松バッハ研究会に再組織され、現在に至っています。その間の経緯については創立メンバーの一人である新井治男氏にご寄稿戴きました。(7ページ)

思えばこの半世紀間に浜松の音楽文化は大きな発展を遂げました。1976年の浜松交響楽団創立、1991年の浜松国際ピアノコンクール開催、1994年にアクトシティの完成、そして2014年のユネスコ創造都市ネットワークへの加盟と、まさに楽器のまちから音楽の都への転換がなされた50年であり、その中でバッハ演奏の伝統も脈々と受け継がれてきました。

私達のこれまでの活動の中で特筆すべきは、2000年から2001年にかけて行ったドイツ演奏旅行です。バッハ生誕の地アイゼナハから始まり、バッハ一族の本拠地であるエアフルトを経由し、今から丁度300年前の1723年にバッハがカントールに就任したライプツィヒの聖トーマス教会に至るまでの11日間の楽旅でした。その間バッハゆかりの会場で8回の演奏を行い、いずれも高く評価されました。浜松・豊橋に根付いたバッハの音楽が、本場ドイツ・バッハの故郷で認められた瞬間でありました。

いま私達は三澤洋史先生という素晴らしい指導者の下、現代に息づくバッハの音楽を求め続けていますが、今回「浜松と豊橋でのバッハ演奏50周年」の節目にあたり、大曲「ミサ曲ロ短調」をとりあげました。バッハが最晩年に至るまで推敲を重ねた人類最高の音楽遺産の一つと称されるほどの名曲ですが、特に終曲の「Dona Nobis Pacem・われらに平安を与えたまえ」は究極の「癒しの音楽」と言われています。コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻、自然災害の多発など、不安の種が尽きない現代において、私達は世界の平安を祈りながら、この大曲に挑みたいと思います。皆様方にこの祈りが届けば幸いです。

浜松バッハ研究会代表 河野 周平
豊橋バッハアンサンブル代表 安井 研一

演奏曲目

J. S. バッハ ミサ曲ロ短調

J. S. Bach << Messe in h-moll >> BWV 232

第1部 ミサ (キリエとグローリア) (約60分)

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1. Kyrie eleison (合唱) | 7. Gratias agimus tibi (合唱) |
| 2. Christe eleison (ソプラノ&重唱) | 8. Domine Deus (ソプラノ・テノール重唱) |
| 3. Kyrie eleison (合唱) | 9. Qui tollis peccata mundi (合唱) |
| 4. Gloria in excelsis Deo (合唱) | 10. Qui sedes ad dextram Patris (アルト独唱) |
| 5. Et in terra pax hominibus (合唱) | 11. Quoniam tu solus sanctus (バス独唱) |
| 6. Laudamus te (ソプラノ独唱) | 12. Cum Sancto Spiritu (合唱) |

休憩 (20分)

第2部 ニカイア信条 (クレド) (約30分)

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1. Credo in unum Deum (合唱) | 6. Et resurrexit (合唱) |
| 2. Patrem omnipotentem (合唱) | 7. Et in Spiritum sanctum Dominum (バス独唱) |
| 3. Et in unum (ソプラノ・アルト重唱) | 8. Confiteor (合唱) |
| 4. Et incarnatus est (合唱) | 9. Et expecto (合唱) |
| 5. Crucifixus (合唱) | |

第3部 サンクトゥス Sanctus (合唱) (5分)

第4部 オサンナ・ベネディクトゥス・アグヌスデイ・ドナノービスパーツェム (20分)

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1. Osanna (合唱) | 4. Agnus Dei (アルト独唱) |
| 2. Benedictus (テノール独唱) | 5. Dona nobis pacem (合唱・終曲) |
| 3. Osanna (合唱 繰り返し) | |

終演予定 17:40

出演者 プロフィール



指揮者 三澤 洋史 (みさわ ひろふみ)

国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。2001年より現在まで新国立劇場合唱団指揮者。1999年から2003年までの5年間、「パイロイト音楽祭」で、祝祭合唱団指導スタッフの一員として従事。2011年、文化庁在外研修員として、ミラノスカラ座において、合唱指揮者ブルーノ・カゾーニ氏のもとでスカラ座合唱団の音楽作りを研修。バッハに深く傾倒しており、マタイ受難曲、ヨハネ受難曲、ミサ曲ロ短調など全て暗譜でレパートリーに有する。2000年暮れから2001年初めにかけての浜松バッハ研究会ドイツ演奏旅行では、エアフルト、ハレでのミサ曲ロ短調成功に加え、ライブツィヒ聖トーマス教会の新年音楽礼拝を聖トーマス合唱団に代わり務めた。2006年、自らのバッハ演奏のホームグラウンドとして東京バロックスコラーズを立ち上げ、ここを根拠として「21世紀のバッハ」をめざして多角的な活動を行っている。現在、新国立劇場首席合唱指揮者、東京バロックスコラーズ音楽監督、名古屋モーツァルト200合唱団、志木第九の会、浜松バッハ研究会、常任指揮者。新国立劇場合唱団の業績が評価され、2016年、JASRAC音楽文化賞受賞。



ソプラノ 國光 とも子 (くにみつ ともこ)

武蔵野音楽大学卒業。愛知県立芸術大学大学院修了。新国立劇場オペラ研修所修了。文化庁芸術家在外派遣研修員として渡伊、ボローニャにて研鑽を積む。新国立劇場「フィガロの結婚」「タンホイザー」などで出演を重ねるほか、「椿姫」タイトルロール、「リゴレット」(ジルダ)、ミシェル・プラッソン指揮/二期会「エロディアード」(サロメ)などを演じる。また、バッハ「ヨハネ受難曲」、メンデルスゾーン「エリヤ」、ヴェルディ「レクイエム」、マーラー「千人の交響曲」など、交響曲や宗教曲のソリストとしてオーケストラと多数共演。浜松バッハ研究会とは2010年「メサイア」、2012年「ロ短調ミサ」、2015年「マタイ受難曲」でも共演している。



メゾソプラノ 三輪 陽子 (みわ ようこ)

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学院音楽研究科声楽専攻修了。第5回国際ワーグナー歌唱コンクール派遣対象者国内オーディション最優秀賞と特別賞を受賞。平成20年度新進芸術家海外派遣制度在外研修員としてイタリアとオーストリアに留学。新国立劇場オペラ公演、同劇場の鑑賞教室に出演。宗教曲の分野では、バッハ「ミサ曲ロ短調」「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「ミサ・ブレービス」「戴冠ミサ」「ハ短調ミサ」「レクイエム」、ロッシニー「小荘厳ミサ」、ヴェルディ「レクイエム」、ドヴォルジャーク「スターバトマーテル」などにアルトソロとして出演している。浜松バッハ研究会ヴォイストレーナー、二期会会員。



テノール 大久保 亮 (おおくぼ りょう)

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学大学院首席修了。愛知祝祭管弦楽団 楽劇「神々の黄昏」ジークフリート役、名古屋二期会創立50周年「魔笛」タミーノ役など出演。また、バッハ「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「クリスマス・オラトリオ」エヴァンゲリストをはじめ、ヘンデル「メサイア」、ハイドン「天地創造」、モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「交響曲第9番」、メンデルスゾーン「エリヤ」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」などにソリスト出演。リサイタルも定期的に開催し、これまでにシューマン「詩人の恋」、シューベルト「美しい水車小屋の娘」「冬の旅」「白鳥の歌」、マーラー「さすらう若人の歌」を演奏している。声楽を二宮咲子、近藤恵子、故 松下雅人、二神二朗、畑儀文の各氏に師事。



バリトン 大森 いちえい (おおもり いちえい)

昭和音楽大学声楽科首席卒業。国立音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻(オペラ)修了。二期会オペラスタジオ第36期研究生修了。1990年大学院修了オペラ「ドン・ジョヴァンニ」レポレルロ役でオペラデビュー。現在に至るまで膨大な数のオペラ、コンサートなどの舞台に出演。新国立劇場「三文オペラ」鋸のロバート役にて俳優メジャーデビューを果たす。近年ではワーグナー作品、クリングゾール、アルベリッヒなど各役名古屋にて出演。三澤洋史作品をライフワークにミュージカルにも触手を伸ばす。桑原妙子、中村健、新田ちさ、太田実、シュテファン・アルトナー、白石卓也、三澤洋史の各氏に師事。東京バロックスコラーズヴォイストレーナー。日本丸を愛する男声合唱団3代目キャプテン。東京交響管弦楽団トウキョウコーラスヴォイストレーナー。二期会会員。



コンサートマスター 川原 千真 (かわはら ちま)

東京芸術大学および同大学院修了。ヴァイオリンを松本貞夫、野上岐三博、野上紘子、海野義雄、田中千香士、ヴィオラ・ダ・ガンバを平尾雅子に師事。「古典四重奏団」として村松賞、文化庁芸術祭大賞、同優秀賞、JXTG 音楽賞(旧モービル賞)奨励賞、ミュージック・ペンクラブ音楽賞受賞。「シヨスタコーヴィチ弦楽四重奏曲全集」CD においてレコードアカデミー大賞、文化庁芸術祭大賞受賞。「音楽三昧」としてアメリカ公演(国際交流基金助成)、第7回「サライ大賞」CD・DVD 部門賞受賞。2000年、2004年、2009年、2016年バロック・ヴァイオリンによるバッハ無伴奏ソナタ・パルティータ演奏会を開催、2009年同全6曲2枚組CDをリリース(「レコード芸術」特選盤)。ルクレール/ヴァイオリンソナタ全曲演奏会継続中。



コンティヌオ首席・チェロ 田崎 瑞博 (たさき みずひろ)

東京芸術大学卒。ヴァイオリンを桑田晶、兎東龍夫、山岡耕筈、外山滋に師事。「タブラトゥーラ」ではフィデル、「古典四重奏団」ではチェロ、アンサンブル「音楽三昧」ではヴィオラと編曲を担当。文化庁芸術祭大賞を二度、ENEOS 音楽賞奨励賞、レコードアカデミー大賞、「サライ大賞」を各受賞。作品として、宮沢賢治作詞作曲「星めぐりの歌」による弦楽四重奏曲・二重奏曲を発表。CD「外山滋の芸術」を編纂。



ピッコロトランペット首席 松野 美樹 (まつの はるき)

東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。以来、フリーのトランペット奏者として、ソロ、国内外のオーケストラ、室内楽、吹奏楽等で活躍する。特に、バロック音楽の分野において、ピッコロトランペット、バロックトランペットのソリスト、及び客演第一奏者として活躍。国内だけでなく2012年より2016年まで、毎年渡独し各地の古楽オーケストラとバッハのロ短調ミサ、クリスマス・オラトリオ、マニフィカトのソロパート及びトゥッティパート、トレッリの協奏曲等を共演する。現在までにトランペットを北村源三、田中昭両氏に師事、バロックトランペットをフリーデマン・インマー氏に師事。また、小林道夫氏にバロック音楽等の教えを受ける。現在名古屋芸術大学非常勤講師(古楽器)。



オルガン 内山 美穂 (うちやま みほ)

広島エリザベト音楽大学宗教音楽学科パイプオルガンコースを卒業。同大学院修士課程を修了。オルガンを山崎陽子氏に師事。卒業後渡欧。ベルギー王立音楽院においてH・フェルスクラーゲン氏に師事しブリュッセル校をプルミエプリ取得後卒業。オランダ王立音楽院マーストリヒト校においてK・ドーゴ氏に師事しプルミエプリ取得後卒業。同時期、ベルギーを代表する作曲家でオルガニストのF・ペータース氏に師事。1984年アントワープ国際コンクール(ベルギー)最高位受賞。ベルギー、オランダ、イタリアで演奏活動を行う。1992年~1997年イタリア、ミラノ近郊アレーゼの Maria Aiuto dei Cristiani 教会のオルガニストを務める。帰国後、浜松を中心にイベントに出演。東京オペラ・シティでの「ビジュアルコンサート」にてソロ演奏。日本オルガニスト協会会員。

浜松バッハ研究会・管弦楽団

浜松交響楽団、カペラ・アカデミカ、ソナス・アンサンブル、掛川市民オーケストラなどから、バッハおよびバロック音楽をこよなく愛する有志が集い、バッハ研究会公演の度に組織されている。アンサンブル・ミュージック浜松などから専門家も加わり、緻密なアンサンブルには定評がある。

| | | | | | |
|------------|--------|--------|--------|--------|------|
| Violin I | 川原 千真 | 木内 麻希子 | 長谷川 悠 | 松嶋 朗生 | 前澤 陽 |
| Violin II | 小沢 規子 | 疋田 清香 | 小野 弘達 | 田邑 利香 | 東儀 温 |
| Viola | 櫻井 彩花 | 篠田 侑香里 | 小林 勝 | 小林 はる奈 | |
| Cello | 田崎 瑞博 | 神農 清志 | 西村 美菜子 | | |
| Contrabass | 田邑 元一 | | | | |
| Flute | 木村 伊都子 | 続 真樹 | | | |
| Oboe | 大橋 弥生 | 村瀬 正巳 | 樽林 淳 | | |
| Fagott | 曾布川 利貞 | 高木 麻衣 | | | |
| Horn | 末永 雄一郎 | | | | |
| Trumpet | 松野 美樹 | 福田 徳久 | 岡部 比呂男 | | |
| Timpani | 今泉 好雅 | | | | |
| Organ | 内山 美穂 | | | | |



浜松バッハ研究会・合唱団

バッハ生誕300周年の1985年に結成され、マタイ受難曲、ヨハネ受難曲、ミサ曲口短調などの大作や、クリスマス・オラトリオ、カンタータ、モテットなどを取り上げ、管弦楽団と共に上演している。2000年にドイツ演奏旅行を行い、ライブツィヒの聖トーマス教会などで演奏した。常任指揮者として我が国バッハ演奏の権威である、新国立劇場指揮者の三澤洋史氏を招き、バッハの音楽を深く学びつつその魅力を多くの皆様にお伝えすべく、姉妹団体である豊橋バッハアンサンブルと共に活動を続けている。名古屋・静岡などから参加する会友も多い。

| | | | | | | | |
|---------|----------|--------|-------------|--------|-------|-------|--|
| | 常任指揮者 : | 三澤 洋史 | ヴォイストレーナー : | 三輪 陽子 | | | |
| | 練習指揮者 : | 河野 周平 | | | | | |
| | ピアノ伴奏者 : | 宮本 いずみ | 栗田 竜次 | | | | |
| Soprano | 河合 良子 | 川瀬 綾子 | 金子 恒江 | 齊藤 百音 | 増井 京子 | 毛利 優子 | |
| | 中村 修子 | 丹羽 多美子 | 平野 真奈美 | 山本 八重子 | 村上 明子 | 内山 文 | |
| Alto | 渥美 法子 | 金丸 則子 | 河野 善子 | 木内 淳子 | 鬼頭 計枝 | 柴田 智子 | |
| | 鈴木 理恵 | 長谷川 明子 | 長谷川 公子 | 細倉 ゆずる | 森田 啓子 | 山田 智子 | |
| | 西川 尚子 | 武田 清美 | | | | | |
| Tenor | 丹羽 哲也 | 西尾 昌巳 | 藤田 泰史 | 平野 好道 | 村上 裕二 | | |
| | 伴野 勤 | 座光寺 哲 | 桜町 俊二 | 戸島 準一朗 | 村橋 英幸 | | |
| Bass | 大村 忠宏 | 河野 周平 | 寺川 暢 | 宮 秀雄 | | | |
| | 山田 和典 | 山田 溪人 | 南 拡大朗 | | | | |

豊橋バッハアンサンブル

バッハを歌いたい、だけど毎週浜松まで出かけるのは無理……という豊橋在住の人達が集まり、1994年8月にできた合唱団が豊橋バッハアンサンブルで、いわば浜松バッハ研究会の分身。毎週豊橋で練習し、三澤先生の練習があるときは、浜松に出かけて、浜松バッハ研究会と一緒に活動している。豊橋でも芸術劇場PLATや教会などで独自の演奏会を開いている。

| | | | | | | | |
|---------|---------|--------|-------|----------|--------|-------|--|
| | 練習指揮者 : | 伊津野 真一 | 森下 静子 | ピアノ伴奏者 : | 高木 克子 | | |
| Soprano | 天井 麻喜子 | 伊津野 泰子 | 北原 初代 | 白井 登枝江 | 三宅 ゆりの | | |
| Alto | 小林 益世 | 富田 康江 | 浪崎 加代 | 彦坂 克美 | 馬淵 京子 | 森下 静子 | |
| Tenor | 伊津野 真一 | | | | | | |
| Bass | 清原 正高 | 駒沢 真司 | 近藤 宏司 | 富田 充 | 原口 直樹 | 安井 研一 | |

Bach50 周年客演合唱メンバー

浜松バッハ研究会からの招請で、各地から応援に駆けつけていただいた、東京バロックスコラーズ(TBS)の現役メンバーと、福岡コレギウムムジクム(FCM)、浜松ポリフォニカ・アンブロジーアーナ(HPA)、バッハアンサンブルコール(BEC)の旧メンバーの皆さん。過去に故濱田徳昭先生の薫陶を受けたり、現音楽監督・三澤洋史先生のご指導のもとバッハを歌っている方々を主体としている。

| | | | | |
|---------|------------|-------------|------------|------------|
| Soprano | 溝田 照子(FCM) | 児島 加津子(TBS) | 井上 明香(TBS) | 岡田 彩子(BEC) |
| Alto | 川原 晶子(FCM) | 清木 穂名美(TBS) | | |
| Tenor | 新井 治男(HPA) | 山口 聡(FCM) | | |
| | 服部 裕文(TBS) | 遠田 昭夫(TBS) | 新岡 香織(TBS) | 三宮 靖典(TBS) |
| Bass | 溝田 博和(FCM) | 田村 高幸(TBS) | 清水 良一(TBS) | 清木 達(元TBS) |

演奏会スタッフ

| | | | | | | |
|---------------|--|--------|-------|-------|-------|-------|
| ステージ・マネージャー : | 柴原 貞幸 | 畑山 譲 | | | | |
| フロア・マネージャー : | 河野 真剛 | 河野 善子 | | | | |
| | 伊津野 美波 | 川田 咲度 | 黒田 浩子 | 前田 知子 | 小原 雅子 | |
| | 大津 ティナ | 長谷川 正仁 | 宮森 芳美 | 山中 美恵 | 山中 進 | 赤池 博子 |
| アナウンス : | 土川 さち子 | | | | | |
| ビデオ撮影 : | 萩野 潔 | | | | | |
| 録音 : | 福本 信夫 | 新井 明 | | | | |
| チラシデザイン : | 並木 佳子(ラトリエ・オリーブ)※表紙の絵は聖トーマス教会のファサードを描いたものです。 | | | | | |
| プログラム制作 : | 長谷川 明子 | 河野 周平 | | | | |

「私は在る」

三澤 洋史

2020年春。新型コロナ・ウィルス感染拡大の波が瞬く間に全世界規模で広がり、僕の周囲からオペラ公演や演奏会が全て消えた。当然そのための練習もなくなったので、あれだけ忙しかった僕の手帳は真っ白になり約半年間、全く仕事のない日々が続いた。

最初は教会も聖堂の扉を硬く閉ざしてしまっただけで、間もなく解放されたので、僕は毎日教会に通った。誰もいない聖堂には午後の光が差し込んで美しかった。カトリック教徒としては不謹慎かもしれないが、僕は座禅でするような結跏趺坐（けっかふざ）を組み、瞑想をした。最初は約15分。それが日ごとに長くなり、最後は1時間程度の長さに着いた。

禅の本を読むと、
「自分をなくして完全に無になれ」
と書いてあるが、僕にはそれができなかったし、するつもりもなかった。

目をつむって静かにしていると、最初はいろんな日常の事柄が無秩序に頭の中を通り過ぎていくが、それらはしだいに遠のいていく。自我だと思っていたものが、だんだん削ぎ落とされていって、まず欲望が自分から離れ、意志が離れ、感情が離れ、暑さ寒さの感覚や組んでいる手足の感覚とかもなくなってくる。息は睡眠時のような深い腹式呼吸になっていくが、上半身が重力に垂直になっているので、眠り込んでしまうことはない。

瞑想が深くなるにつれて、自我はさらに小さくなり、自分自身が抽象的な存在になって、やがてひとつの点に凝縮する。それは、言ってみれば、
「私は在る」
という意識のみだ。

しかし、この意識は強烈だ。何故なら、それは絶対的至福感を伴った“法悦体験”であるから。この点が禅宗と袂を分かるところだが、僕は逆に不思議に思う。何故禅は、せつかく瞑想していながら、それを目指さないのだろうか？
「私は在る」という意識は、僕が物心ついてからずっと僕自身の中心にあったことに気が付いたが、実は生まれる前からあり、これからも未来永劫あり続けると思われる。同時に、その意識の中には、「僕という存在を生み出した霊的エネルギー」が、同心円状に幾重にも重なっている。それをある人は「神」と呼び、別の人は「守護霊」と呼び、また別の人は「聖霊」と呼んだのかも知れない。

「時間は過去から未来に向かって流れていく」と一般には思われている。しかしながら、時の制約からはずれている「私は在る」を認識すると、「時が勝手に動いている」ことに気が付く。つまり、未来は自分に向かってやって来て、自分を通り過ぎ、過去に消えて行くのである。

「私は在る」は傍観者であるが、肉体を持った僕は行為者でもあるから、自分に向かってきた現象に出遭うと、様々な感情を持ったり考えたりしながら何らかのリアクションを起こす。すると、そのリアクションの影響を受けた未来が、新たに自分に向かってやって来る。これが、お釈迦様の説いた「因果応報」の法則。

ということは、過去の「トラウマ」などというものに囚われる事は無意味なのだ。つまり過去なんてないのだ。自分は未来に向かって百パーセント自由であり、どんな未来をも作り出すことが出来る“未来の創造主”なのだ。コロナでさえ、明日のより良い自分を創造するきっかけとなり得る。現に、自分は、コロナを縁として、この気づきを得ているではないか！

浜松バッハ研究会は、コロナによって、2021年2月の「ロ短調ミサ曲」演奏会のキャンセルを余儀なくされ、その後しばらく活動を休止していたが、このコンサートのための練習を再び立ち上げたので、僕は久しぶりに「ロ短調ミサ曲」のスコアと向かい合った。

すると、即座に気が付いた。
「これは、『私は在る』を知っている人が作った音楽だ！」
ちょっと言葉では説明出来ないが、Kyrieのロ短調で滔々と流れる響きの中にも、Cum Sancto Spirituの弾け飛ぶ光の舞踏の中にも、「私は在る」のきらめきが宿っているのだ。

それよりも、バッハの音楽自体に満ち充ちている“崇高美”は、歴史上のどの作曲家も及ばない。それはバッハという人物の霊的認識力の高さから来るものだ。

コロナ禍、そして瞑想体験を経て世界の神秘を知った僕は、今、満を持して、巨匠バッハの「ロ短調ミサ曲」に向かう。それを、今日この演奏会に集って下さった皆様と共に体験したいと思います。

浜松・豊橋のバッハ演奏50年 その黎明期を振り返る

ポリフォニカ・アンブロジーナーナOB 新井 治男

団体名や指導者は変われども、浜松・豊橋両地で50年にわたって継続的にJ.S.バッハの教会音楽を演奏しているグループは他に例がないでありましょう。そのこと自体希有なことですが、仕事でハンブルクやパリに駐在された期間を除き、一貫して団体の中心にあつてその代表者、指揮者として揺るぎない足跡を今も刻みつつある河野周平氏の、バッハの音楽に対する愛と情熱、合唱団とオーケストラの運営能力と発信力、的確な協演者の発掘力は、浜松バッハ研究会のみならず、遠州と三河にまたがる地域の音楽活動の発展にどれほど大きな力となったことでしょうか。その河野氏との出会いは、あの日から半世紀が過ぎた今も私の心に深く刻み込まれています。

勤務する高砂香料工業の人事異動で、私が磐田郡豊田町(現磐田市)に赴任したのは1972年でした。1年余りは新工場の試運転に昼夜を問わず忙殺されていましたが、一息ついた翌73年の春先、それまで住んでいた東京で参加していた合唱団「コーロ・ポリフォニコ」の練習に、OBとして出席する機会を得ました。そして練習終了後、このグループの指揮者であった濱田徳昭先生から「明日君が磐田に戻るなら、私も豊川にある日立製作所の家電研究所に出張するので同行しないか」とのお誘いをいただき、浜松までご一緒したのです。車中で先生は「日立の家電研には私が指揮した東北大学の合唱団にいた若林学君が、浜松の日本楽器(現ヤマハ)の電音研には九州芸術工科大学(現九州大学)出身で教え子の河野周平君がいるので、一度連絡を取ってみてはどうか。話がまとまれば豊橋や浜松での音楽活動に、私がお手伝いできるかもしれない」というお話を頂きました。それまで仕事に没頭して音楽活動を封印していた私にとっては願ってもないお話で、後日お二人の連絡先に電話をしたところ、若林・河野両氏とも20代半ばの私と同世代で、バッハの音楽に傾倒しているという共通点があることがわかり、ともかくも次の濱田先生のご出張時に合わせて会いましょう、ということになりました。

そして1973年の3月21日、4人は豊橋グランドホテルに集まって、食事をともにしながら歓談したのですが、その日ははからずもバッハの誕生日であったのは後になって知ったことです。私たち3人はその場で意気投合し、近い将来浜松・豊橋地域でバッハの音楽を演奏するという計画で意見が一致しました。

先生の助言により一年間はゼミナール形式で、バロック期の音楽を演奏するための基礎知識を共有することになり、「古典合唱音楽研究会」の名の下に活動を開始しました。講師は濱田先生、教材はH.シュッツの「宗教的合唱曲集」、テキストにR.サーストン・ダート著「音楽の解釈」を選び、講義と演習により当時の演奏習慣を学びました。それらはピリオド楽器による演奏が主流の今日では当然の事として受け取られています。当時の私には新鮮な驚きに満ちた知見でした。ゼミナールは計6回行われ、浜松・豊橋の地でバッハを愛する20人ほどの会員が参加していました。ゼミナール修了後、このメンバーをコアに豊橋「ポリフォニカ・グレゴリアーナ」(代表若林氏)、浜松「ポリフォニカ・アンブロジーナーナ」(代表河野氏)が合唱団として、オーケストラとして「カペラ・アカデミカ」(代表吉川紀彦氏)が発足したのが翌1974年のことでした。

この3団体で最初に取り上げたのはバッハのカンタータ「目覚めよと呼ぶ声が聞こえ」と「マニフィカート(わが魂は主をあがめ)」で、その年の10月24日に豊橋市民文化会館で、翌25日にカトリック浜松教会で、濱田先生の指揮による初の演奏会「バッハの夕べ」を開催しました。これは豊橋・浜松における本格的なバッハ演奏の嚆矢と言うべきもので、「これを機にバッハ作品の連続演奏を」と私たちの期待はふくらみましたが、同時に苦難に満ちたその後10年間にわたる音楽活動の始まりでもありました。それは早すぎたスタートダッシュであり、大きな夢を実現するにはあまりに脆弱な組織基盤であったのです。

二つの合唱団は1976年にあらゆる困難を押して豊橋・浜松で行った「マイ受難曲」の公演(奇しくも浜松公演の日もまたバッハの誕生日でした)直後から慢性的な財政危機に陥り、1984年ついに活動停止のやむなきに至りました。

しかしその「志」は、本日皆様がお聴きになる「浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブル」の演奏にしっかりと引き継がれています。それが可能となったのは、1979年にハンブルクに赴任し、ビジネスの傍ら指揮者J.ユルゲンス率いる「モンテヴェルディ合唱団」の一員として活躍されていた河野氏が、1985年に帰国早々浜松医科大学の学生・卒業生からなる「浜松アカデミアカントルム」を母体として、「アンブロジーナーナ」「グレゴリアーナ」の元団員らを糾合し、目的を同じくする新団体「浜松バッハ研究会」を立ち上げ、早くもその年の12月、自らの指揮でバッハの「クリスマス・オラトリオ」(前半)を演奏するという、卓越した行動力の賜物でした。そしてその後38年に及ぶバッハ研究会の輝かしい活躍ぶりは、ここにおられる皆様ですでにご存じのとおりです。

曲目解説

バッハ「ミサ曲ロ短調」について

伊津野 真一 (豊橋 BE)

ヨハン・セバスティアン・バッハの「ミサ曲ロ短調 BWV232」は、ミサ曲の最高傑作と表現して異論はないと思われまふ。この曲はバッハの声楽作品の中で非常に特別な位置を占めています。しかも他の声楽曲とは異なり、計30年以上にもわたる広がりを持つ独特の成立史によって成り立っています。「ミサ曲ロ短調」の独特の成立については様々な解説書などで詳細に解析されていますのでここでは省略させていただきます。バッハのミサ曲は本日演奏するロ短調(BWV232)のほかにも4曲(BWV233-236)ありますが、これらはすべてキリエとグローリアのみで、「ミサ通常文」のすべてを含むものは「ミサ曲ロ短調」だけです。

テキストのラテン語の発音については、ドイツ式の発音を基本とします。カトリックで統一されたラテン語の発音は、バッハをはじめとしたドイツ語を基盤とする声楽曲を表現するのに最適ではないため、これらの音楽では一般にドイツ式の発音が採用されます。さらにドイツ式発音も決まったものがあるわけではなく、本日の演奏では三澤先生の指導による三澤式ジャーマンラテンの発音が採用されています。

第1部 MISSA (ミサ曲: Kyrie と Gloria)

バッハは、1733年にザクセン選帝侯国の「宮廷作曲家」となる目的で Kyrie と Gloria を作曲し「MISSA ミサ曲」としてドレスデン宮廷のフリードリッヒ・アウグスト 2 世に献上したことは文書等から立証されています。

第1曲 冒頭のロ短調の合唱曲である Kyrie はバッハの作品の中でもけた違いに大きく(126小節)、全体の曲の構想の大きさ、重さを力強く感じ取ることができます。三澤先生はビッグバンとも表現されていますが、一瞬にして、とてつもなく大きな世界に我々を引き込んでしまいます。

第2曲 Christe は第1曲 Kyrie から一転して平行長調(ニ長調)による安定した喜びをソプラノ I と II のデュエットが歌います。ユニゾンのヴァイオリンと通奏低音とのクォアルテットとみることができます。

第3曲 Kyrie はバッハの時代から約200年も遡るいわゆる古様式で書かれています。フーガ主題は半音階的に構成され、古様式という性格には反する革新的な処置によって、憐みを願う切実さを強く表現しています。

Gloria は第8曲 Domine Deus を中心に全体として9つの部分から構成されています。テキストの内容は4つの部分(讃歌 Gloria、讃美 Laudamus te、感謝 Gratias、三位一体 Domine Deus ~ Cum Sancto Spiritu)に分けることができます。

第4曲 Gloria は Kyrie と鮮やかな対照をなしています。拍子も偶数拍子からグローリア冒頭の速い3拍子へと変化し、トランペットの輝かしい響きがミサ曲の讃歌を開始するという機能が強く感じられます。「3」は完全性、三位一体の神、神の世界を表します。

第5曲 3拍子の Gloria から4拍子の Et in terra pax (そして地上では、平和が)へと推移していきます。この「pax (平和)」という言葉にぜひ注目して聴いていただきたいところです。ここから4拍子になりますが、「4」は地上、この世、人を象徴します。

第6曲 Laudamus te では神を讃える4行をソプラノのアリアが歌い上げます。

第7曲 Gratias agimus tibi は「感謝」です。三澤先生は祈りの本質はここにあると仰っています。心からありがたいと思う気持ちが、この曲から強く感じられます。この曲は最終曲 Dona nobis pacem (私たちに平和を)にも使われます。これこそが「究極の祈り」ということです。そこでは主題も対主題も Dona nobis pacem で統一されています。この曲はカンタータ BWV 29「感謝します、神よ、感謝します」(Wir danken dir, Gott, wir danken dir)の2曲目が転用されています。

第8曲 Domine Deus はソプラノとテノールの二重唱です。テノールがテキスト1行目を歌い、それを追いかけてソプラノが2行目を歌います。ここからの5曲のテキストは三位一体の内容となります。まず Domine Deus (神なる主よ)です。「父の御子」を経て Cum Sancto Spiritu (聖霊とともに)へ続きます。

第9曲 Qui tollis はカンタータ BWV 46-1からの転用です。「世の罪を除かれた方」である「神の子羊」イエスに光が当てられます。

第10曲 Qui sedes では、「神の右に座られる方」であるイエスに「私たちに憐れんでください」とアルトのアリアで歌いかけます。

第11曲 Quoniam tu solus sanctus は前曲に続き「あなただけが聖であり主であり至高です」という讃歌です。バスのソロ、そして全曲を通してこの曲だけに登場するホルンのオクターヴ跳躍によって「至高」を表します。

第12曲 Cum Sancto Spiritu は Gloria の終曲としてふさわしい輝きに満ちた曲です。この曲は Gloria 冒頭の音楽と対になっており、全体として Domine Deus を中心とした対象をなしています。

第2部 Symbolum Nicenum (ニカイア信条)

Symbolum Niceum は1748年8月から1749年10月の間に編纂されています。Credo in unum Deum から始まる9曲から構成され、中心に Crucifixus (十字架につけられ) が配置されたシンメトリー構造をとっています。このような構造はバッハの他の楽曲 (例えばヨハネ受難曲) でも見られます。テキストは信条の3か条に従って、父なる神、子であるイエス、そして聖霊を扱います。

第1曲 Credo は「信じる」という意味で credit などの語源です。Credo (信条、価値観) という言葉は最近では企業等の組織論でも使われています。この曲はグレゴリオ聖歌の旋律を元に、ミクソリディアというト長調の#F がナチュラルになったように聞こえる旋法で書かれています。ある意味で刺激的な旋法で第2部が始まります。

第2曲 Patrem omnipotentem はカンタータ BWV 171の冒頭曲を転用した4声の合唱ですが、Credo in unum deum に対してバスが Patrem omnipotentem を歌い始め、最後は visibilium omnium et invisibilium の壮麗なフーガで締めくくられます。

第3曲 Et in unum Dominum では、ソプラノとアルトの二重唱によって信条の第2か条が始まることを印象付けています。ここからの4曲でイエスの生涯が語られることとなります。

第4曲 Et incarnatus est はバッハの最後の声楽作品であり、ロ短調ミサ曲の完成にあたり、新たに作曲され挿入されています。incarnatus は「肉体を受ける」という意味で、最後はキリストが人となる et homo factus est (そして人と成られました) という神学の中心的メッセージが届けられます。

第5曲 Crucifixus (十字架につけられ) は第2部9曲の中核となる曲です。いわゆる受難の音型です。カンタータ BWV 12「泣き、嘆き、憂い、怯え」(Weinen, Klagen, Sorgen, Zagen) からの転用です。Crucifixus の最後の和声的軋みによってイエスの死が暗示されます。

第6曲 Et resurrexit では、復活そして昇天をニ長調の5声の合唱で歌います。

第7曲 Et in Spiritum sanctum は、聖霊を扱う信条の第3か条の初めの曲ですが、信条第2か条と同じく、合唱ではなくバスのアリアで始められます。

第8曲 Confiteor はロ短調ミサ曲オリジナルの曲です。5声の二重フーガは全曲中この曲のみです。洗礼と罪の赦しが不可分であることを表現します。

第9曲 Et expecto resurrectionem mortuorum (そして待ち望みます、死者の復活を) というテキストがアダージョ部分とヴィヴァーチェ部分の二通りに音楽化されています。特にヴィヴァーチェ部分では歓喜、確信、死者の復活、来世の生命への音楽的展望が示されていて、アーメンへと至ります。

第3部 Sanctus

Sanctus は1724年クリスマス礼拝のための聖餐式の音楽として作曲されています。この年は、1723年バッハが聖トーマス教会(Leipzig)のカントールに就任した翌年にあたります。最初からラテン語のテキストが使われており、第2部が編纂された1748~1749年に改訂が施されています。

バッハの作品では数字にこだわった作曲が随所に見られます。例えばロ短調ミサ曲第1部最初のキリエは126小節=3×3×14となり、神の象徴数である「3」とBACH(2+1+3+8)を数値化した「14」からなります。Sanctus の数字的特徴は「6」です。「6」は一般にはあまり良い数字ではないのですが、天使セラフィムの翼の数「6」としてSanctus では「6」が繰り返されます。Pleni sunt coeli ここから3拍子に変わって、テノールに始まる歓喜に満ちあふれたフーガが展開されます。

第4部 Osanna、Benedictus、Osanna(繰り返し)、Agnus Deiそして Dona nobis pacem

第4部も第2部と同じ最晩年の作です。

第1曲 Osanna in excelsis では聖書の記述のとおり、民衆はイエスの後ろに分かれて歓声をあげます。ここで合唱は二重合唱となります。

第2曲 Benedictus はテノールの歌う非常に美しいアリアです。この Benedictus を挟んで Osanna が再度繰り返されます。

第4曲 Agnus Dei は神の子羊への祈りです。BWV 11-4からの転用で、ロ短調ミサ曲全曲中で終曲直前のこの曲だけフラット調であるト短調で書かれています。

第5曲 Dona nobis pacem は、第1部の Gratias でも述べたように、同じ音楽(BWV 29)が使われます。テキストはミサ通常分の最後の一行です。Gratias では2行のテキストがそれぞれ主旋律、対旋律に当てはめられますが、最終曲の Dona nobis pacem ではこの1行のみで構成されています。しいて言えば対旋律では Pacem dona nobis と Pacem (平和) を先にしてこの言葉の重さを強調しているようにも思われます。そして全曲を閉じる最後の言葉も Pacem です。

「ミサ曲ロ短調」は、ロ短調で書かれている曲は実は冒頭の Kyrie をはじめとして5曲だけで、終曲を含めて半数以上の曲は平行調であるニ長調で書かれています。真の喜びを表すのにふさわしい調でもあり、ニ長調の記号Dは神(Deus)を連想させる効果もあるのではないのでしょうか。バッハは自筆譜の奥付に SDG (Soli Deo Gloria) を付しています。「ミサ曲ロ短調」の最後にもこれが記されています。現在世の中で叫ばれている SDGs (Sustainable Development Goals) と何かつながりを見出すことができるかもしれません。「ミサ曲ロ短調」を経験すると SDG はSDGs を凌駕するはるかに広い思想のような気がします。

ミサ通常文対訳

1. Kyrie

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

2. Gloria

Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.

Laudamus te, benedicimus te, adoramus te,
glorificamus te.
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.

Domine Deus, Rex coelestis,
Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite Jesu Christe (altissime).
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.

Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dextram Patris, miserere nobis.

Quoniam tu solus sanctus, tu solus Dominus,
tu solus altissimus Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris,
Amen.

3. Credo (Symbolum Nicaenum)

Credo in unum Deum,
Patrem omnipotentem, factorem coeli et terrae,
visibilem omnium et invisibilem.

Et in unum Dominum, Jesum Christum,
Filium Dei unigenitum et ex Patre natum
ante omnia secula,
Deum de Deo, lumen de lumine, Deum verum
de Deo vero,
genitum non factum, consubstantialem Patri,
per quem omnia facta sunt.

Qui propter nos homines et propter nostram salutem,
descendit de coelis.

1. キリエ (憐れみの讃歌)

主よ、あわれみたまえ。
キリストよ、あわれみたまえ。
主よ、あわれみたまえ。

2. グローリア (栄光の讃歌)

天のいと高きところでは 神に栄光がありますように。
そして地上では善意の人に 平和がありますように。

私たちはあなたを誉め、あなたを祝福し、あなたを拝し、
あなたをあがめ、
あなたの大いなる栄光のゆえに、あなたに感謝を捧げます。

主なる神よ、天の王よ、
全能の父なる神よ。
唯一の御子である主 (至高の) イエス・キリストよ、
主なる神よ、神の小羊よ、父の御子よ。

世の罪を除いて下さる方よ、私たちに憐れんでください。
世の罪を除いて下さる方よ、
私たちの願いを聞いてください。
父の右に座しておられる方よ、私たちに憐れんでください。

なぜなら、あなただけが聖なる方だからです。あなただけが
主です。イエス・キリストよ、あなただけがいと高き方です。
聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに、
アーメン。

3. クレド (ニカイア信条／信仰宣言)

私は唯一の神を信じます。
全能の父を信じます。天と地と 見えるものすべてと、
見えないものを作った方を。

また、唯一の主なるイエス・キリストを(信じます)。
すなわち、神の唯一の子であり、この世のすべての
ものよりも前に父より生まれた方を(信じます)。
神から出た神であり、光から発した光であり、
本当の神から出た本当の神であって、
作られることなく、生まれ出て、父と一体であり、
その方によって万物が作られた。

そのイエスは私たち人間のゆえに、また私たちに救うために
天から降りてきて、

Et incarnatus est de Spiritu Sancto
ex Maria virgine: et homo factus est.
Crucifixus etiam pro nobis sub Pontio Pilato
passus et sepultus est.
Et resurrexit tertia die, secundum scripturas.
Et ascendit in coelum: sedet ad dexteram Patris.
Et iterum venturus est cum gloria,
judicare vivos et mortuos :
cujus regni non erit finis.

Et in Spiritum sanctum, Dominum et vivificantem:
qui ex Patre Filioque procedit,
qui cum Patre et Filio simul adoratur,
et conglorificatur: qui locutus est per prophetas.

Et unam sanctam catholicam et apostolicam
Ecclesiam.
Confiteor unum baptisma in remissionem
peccatorum.
Et expecto resurrectionem mortuorum.
Et vitam venturi saeculi,
Amen.

4. Sanctus

Sanctus, sanctus, sanctus, Dominus Deus Sabaoth !
Pleni sunt coeli et terra gloria tua. (gloria ejus)
Osanna in excelsis.
(**Benedictus**)
Benedictus qui venit in nomine Domini.
Osanna in excelsis.

5. Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
miserere nobis.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
miserere nobis.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
Dona nobis pacem.

聖霊によって、聖母マリアから肉体を受け、
人間となりました。そして私たちのために、
ポンティオ・ピラトのもとで 十字架にかけられ、
受難し、葬られました。
そして聖書に書かれているとおり 三日目によみがえり、
天に昇って、父なる神の右に座りました。
そして再び栄光とともに この世に来て、
生きている者と 死んでいる者とを裁きます。
その王国には 終りがありません。

私はまた、主なる聖霊、則ち生命を与えて下さるものを
信じます。その聖霊は父と子から出て、
父と子とともに拝され、あがめられています。
その聖霊は預言者によって語ってきました。

私はまた、唯一の、聖なる、公の、
使徒を継承する教会を信じます。
私は罪の赦しとなる
唯一の洗礼を認め、
死者の復活と、来世のいのちを
待ち望みます
アーメン。

4. サンクトゥス（聖なるかな／感謝の讃歌）

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主は！
天も地も あなたの栄光（彼の栄光）に満ちています。
いと高きところにホサナ。
(**ベネディクトゥス**)
ほむべきかな、主の御名によって来る人は。
いと高きところにホサナ。

5. アグヌス・デイ（神の小羊／平和の讃歌）

世の罪を取り除いて下さる神の小羊よ、
私たちを憐れんでください。
世の罪を取り除いて下さる神の小羊よ、
私たちを憐れんでください。
世の罪を取り除いて下さる神の小羊よ、
私たちに平安を授けてください。

（三河尻正著 ミサ曲・ラテン語・教会音楽ハンドブックより）

※バッハのミサ曲口短調の歌詞で、上記ミサ通常文と異なる部分

“**Gloria**” の中の Domine Fili unigenite Jesu Christe. (ミサ通常文)
Domine Fili unigenite Jesu Christe altissime. (ミサ曲口短調)
(altissime) (至高の) が追加されている。
“**Sanctus**” の中の Pleni sunt coeli et terra gloria tua. (ミサ通常文)
Pleni sunt coeli et terra gloria ejus. (ミサ曲口短調)
(tua)の代わりに(ejus)が使われている。 あなたの栄光 ⇒ 彼の栄光
このバッハが使った歌詞は、当時のルター派での用法に由来するものです。（三河尻正氏による）

浜松バツハ研究会・前身体 演奏活動年譜(主要コンサートのみ)

| グループ | 上演日 | 上演曲目 | 指揮者 | 独唱者 / 独奏者 / 協演団体 | 上演会場 | |
|--|---|--|---------------------------------------|---|--|-----------|
| 豊橋 ポリ フォ ニカ ・ グ レ ゴ リ ア ー ナ | 1973/3/21 | 古典合唱音楽研究会発足 | | 発起人:若林 学・新井治男・河野周平 | | |
| | 1974/10/24 | 第1回演奏会「バツハのタベ」 バツハ「カンタータ140番」「マニフィカート」 | 濱田徳昭 | 鳥居直子 / 秋吉千枝子 西垣俊朗 / 芳賀義光 カペラ・アカデミカ | 豊橋市民文化会館 カトリック浜松教会 | |
| | 1975/4/18 | 第2回演奏会「バツハのタベ」 バツハ「復活祭オラトリオ」「カンタータ21番」 ヴァイオリン協奏曲第2番ホ長調 | 濱田徳昭 | 鳥居直子 / 上島京子 西垣俊朗 / 芳賀義光 Violin 矢島栄子 / カペラ・アカデミカ | 豊橋市民文化会館 浜松市民会館 | |
| | 1976/3/20 | 第3回演奏会 バツハ「マタイ受難曲」 | 濱田徳昭 | 西垣俊朗 / 渡部成哉 清水信子 / 上島京子 / 平野満彦 磐田北高合唱団 / カペラ・アカデミカ | 豊橋市民文化会館 浜松市民会館 | |
| | 1976/12/13 | 第4回演奏会 ヘンデル「メサイア」 | 濱田徳昭 | 清水信子 / 佐藤安子 西垣俊朗 / 渡部成哉 カペラ・アカデミカ | 豊橋勤労福祉会館 浜松市民会館 | |
| | 1977/4/2 | 日本オラトリオ連盟演奏会 バツハ「マタイ受難曲」 | 濱田徳昭 | 西垣俊朗 / 田島好一 / 渡部成哉 勝本章子 / 長野羊奈子 / 伯田好史 東京荒川少年少女合唱隊 バツハ・コレギウム | NHKホール | |
| | 1977/11/21 | 第5回演奏会(豊橋市芸術祭参加公演) バツハ「ミサ曲口短調」 | 濱田徳昭 | 清水信子 / 佐藤安子 西垣俊朗 / 渡部成哉 カペラ・アカデミカ | 浜松市民会館 豊橋市民文化会館 | |
| | 1978/10/11 | 第6回演奏会 バツハ「ヨハネ受難曲」 | 濱田徳昭 | 西垣俊朗 / 渡部成哉 大川隆子 / 荏智世恵 / 平野満彦 カペラ・アカデミカ | 浜松市民会館 豊橋市民文化会館 | |
| | 1978/12/10 | 第1回市民クリスマス ヘンデル「メサイア」 | 濱田徳昭 | 藤井多恵子 / 藤田みどり 藤沼昭彦 / 大島幾雄 | 豊橋市民文化会館 | |
| | 1978/12/12 | クリスマスの聖歌・讃美歌 | 坂本弘国 | 浜松クリスマスコワイア / カペラ・アカデミカ | 浜松市民会館 | |
| | 1979/11/2 | 第7回演奏会 モーツァルト「レクイエム」 | 濱田徳昭 | 酒井美津子 / 小見佳子 佐々木正利 / 渡部成哉 Violin 矢島栄子 / カペラ・アカデミカ | 浜松市民会館 豊橋勤労福祉会館 | |
| | 1979/11/4 | 教会ソナタハ長調 / Violin協奏曲3番ト長調 | 濱田徳昭 | 同上 | 同上 | |
| | 1980/2/14 2/16 2/19 | 日本オラトリオ連盟 第1回渡欧公演 バツハ「マタイ受難曲」 | 濱田徳昭 | 福音史家 E.ヘフリガー / イエス: N.テューラー / 高木鳩子 / 伊原直子 / 佐々木正利 / 渡部成哉 / バツハ・コレギウム | ローザンヌ:大聖堂 チューリッヒ:フラウミュンスター ウィーン:楽友協会大ホール | |
| | 1980/11/4 | 第8回演奏会(日本オラトリオ連盟公演) コーロ・モンテヴェルディとして参加 モンテヴェルディ「ヴェスプロ」 | 濱田徳昭 | 山田百合子 / 中島史子 / 座光寺哲 鈴木真一 / 吉田征夫 / 高橋啓三 / 渡部成哉 / ソチエテ・モンテヴェルディ | 浜松市民会館 豊橋勤労福祉会館 | |
| | 1980/11/5 | 同上 | 濱田徳昭 | 同上 | 同上 | |
| | 1981/10/17 | 日本オラトリオ連盟 公演 バツハ「ミサ曲口短調」 | 濱田徳昭 | 魚瀬明子 / 山田恵子 / 嶋守洋子 座光寺哲 / 佐藤 裕 / 根深嘉文 バツハ・コレギウム | 豊橋勤労福祉会館 | |
| | 1982/5/16 5/17 5/18 5/19 5/21 5/23 | 日本オラトリオ連盟 第2回渡欧公演 バツハ「ミサ曲口短調」 コルトリークのみ カンタータ4番、182番、マニフィカート | 濱田徳昭 | 白井光子 / 永島陽子 / 佐々木正利 石井健三 / 小松英典 / 山中幸雄 バツハ・コレギウム エドワード・タールトランペットアンサンブル | ウィーン:楽友協会大ホール ニュルンベルグ: マイスター・ジンガー・ホール ハンブルグ:ムジーク・ハレ ポルドー:オペラ劇場 コルトリーク:大劇場 シヤフハウゼン:ヨハネ大聖堂 | |
| | 浜松 ア カ デ ミ ア ・ カ ン ト ル ム | 1980/6/29 | バツハ「カンタータのタベ」 BWV4, BWV140, BWV182 | 濱田徳昭 | 酒井美知江 / 西山やす子 座光寺哲 / 小貫勇作 / カペラ・アカデミカ | カトリック浜松教会 |
| | | 1981/6/21 | オリジナル楽器による本邦初演 ヘンデル「メサイア」 | 濱田徳昭 | 神谷さゆり / 酒井美知江 / 日佐戸陽子 岩瀬佳子 / 藤島一郎 / 座光寺哲 名倉英治 / 小貫勇作 / バツハ・コレギウム | カトリック浜松教会 |
| | | 1982/6/27 | バツハ「ミサ曲口短調」 | 濱田徳昭 | 西山美紀 / 山田恵子 / 一丸百合子 座光寺哲 / 杉野達也 / 藤島一郎 バツハ・コレギウム | 浜北文化センター |
| | | 1983/6/18 | バツハ「ヨハネ受難曲」 | 濱田徳昭 | 西垣俊朗 / 渡部成哉 / 阿部陽子 / 小見圭子 / バツハ・コレギウム | 浜北文化センター |
| 1984/4/30 5/2 5/4 | | 日本オラトリオ連盟 第3回渡欧公演 ヘンデル「メサイア」 | 濱田徳昭 | 村上雅英 / 永島陽子 / 西垣俊朗 / M.ジョージ / バツハ・コレギウム (今上陛下がViola奏者として参加された) | ブタペスト: マチアス教会 ウィーン: 楽友協会大ホール ロンドン: 聖ジェイムズスクエア | |
| 1984/6/30 | | 日本オラトリオ連盟 第3回渡欧記念公演 ヘンデル「メサイア」 | 濱田徳昭 | 山本智子 / 太刀川昭 / 座光寺哲 / 高井 治 / バツハ・コレギウム | 浜松市勤労会館 | |
| 1985/4/6 | | バツハ生誕300年記念 バツハ「ミサ曲口短調」 | 濱田徳昭 | 勝本章子 / 山田恵子 / 西垣俊朗 / 高井 治 / バツハ・コレギウム | 浜松市福祉文化会館 | |



在りし日の濱田徳昭先生



浜松初の本格的なバツハ演奏会「バツハのタベ」

1974年10月25日 カトリック浜松教会 聖堂(当時成子町)

演奏曲: J.S. Bach

・カンタータ「目覚めよと呼ばる声す」 BWV140

・マニフィカート・ニ長調 BWV243

指揮: 濱田 徳昭

独唱: 鳥居直子 / 秋吉千枝子 / 西垣俊朗 / 芳賀義光

合唱: ポリフォニカ・アンブロジーナー

ポリフォニカ・グレゴリアーナ

管弦楽: カペラ・アカデミカ、コンサートマスター: 矢島 栄子

浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブル 演奏活動年譜(主要コンサートののみ)

| グループ | 上演日 | 上演曲目 | 指揮者 | 独唱者/独奏者/協演団体 合奏は浜松バッハ研究会管弦楽団 | 上演会場 |
|--|--|--|--|--|-----------|
| 浜松 バッハ 研究会 ・ 豊橋 バッハ アンサンブル | 1985/12/26 | J.S.Bach 生誕300年記念演奏会 バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部 浜松バッハ祝祭合唱団・管弦楽団として演奏 | 河野周平 | 山本智子 / 酒井美知江 座光寺哲 / 渡部成哉 | 遠州栄光教会 |
| | 1986/12/22 | バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部 | 河野周平 | 坂野多巳予 / 酒井美知江 西垣俊朗 / 渡部成哉 | 遠州栄光教会 |
| | 1988/3/21 | バッハ「マタイ受難曲」一部割愛 | 河野周平 | 西垣俊朗 / 渡部成哉 / 石津真理子 佐藤安子 / 座光寺哲 / 平野満彦 浜北少年少女合唱団・内野台キンダーコア | 福祉文化会館 |
| | 1988/12/26 | バッハ「クリスマス・オラトリオ」第4～6部 | 河野周平 | 高田晴代 / 佐藤安子 座光寺哲 / 高井 治 | 遠州栄光教会 |
| | 1990/10/7 | 創立5周年記念コンサート バッハ「ミサ曲口短調」 | 三澤洋史 | 蒲原史子 / 寺尾美穂 / 佐藤安子 西垣俊朗 / 牧野正人 | 福祉文化会館 |
| | 1990/12/16 | バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部 | 三澤洋史 | 佐地多美 / 寺尾美穂 木下基樹 / 高井 治 | 遠州栄光教会 |
| | 1992/3/22 | バッハ「ヨハネ受難曲」 | 三澤洋史 | 木下基樹 / 鈴木 徹 / クラウス・オッカー 山田美津子 / 佐藤安子 | 福祉文化会館 |
| | 1993/3/21 | ヘンデル「メサイア」 | 三澤洋史 | 山田美津子 / 佐藤安子 西垣俊朗 / クラウス・オッカー | 福祉文化会館 |
| | 1994/6/12 | 「無伴奏合唱への誘い」 W.バード「4声のミサ」 J. S. バッハ「モテット BWV225 & 229」 | 三澤洋史 | 合唱のみ | 遠州栄光教会 |
| | 1995/1/22 | 「ニューイヤーコンサート」バッハ名曲選他 第1部・ヴィクトリアとシュッツのモテット 第2部・J. S. バッハのモテットBWV225 第3部・合唱によるJ. S. バッハの名曲 第4部・J. S. バッハの教会カンタータより | 三澤洋史 | 合唱のみ | 遠州栄光教会 |
| | 1996/2/18 | 創立10周年記念コンサート バッハ「マタイ受難曲」全曲 | 三澤洋史 | 頃安利秀 / 渡部成哉 / 山田美津子 佐藤安子 / 小田 薫 / 長谷川顯 浜松ライオンネット児童合唱団 | アクト中ホール |
| | 1997/2/16 | バッハ「マニフィカート」 モーツァルト「レクイエム(バイヤー版)」 | 三澤洋史 | 田村麻子 / 小田 薫 西垣俊朗 / 長谷川顯 | アクト中ホール |
| | 1998/4/5 | バッハ BWV227, BWV106, BWV131他 | 三澤洋史 | 小田 薫 / 西垣俊朗 / 長谷川顯 | 福祉文化会館 |
| | 2000/2/13 | バッハ「ミサ曲口短調」 | 三澤洋史 | 藤崎美苗 / 永島陽子 西垣俊朗 / 長谷川顯 | アクト中ホール |
| | 2000/12/29- 2001/1/8 | ドイツ演奏旅行 | 三澤洋史 | 藤崎美苗 / 山下牧子 望月哲也 / 初鹿野剛 | |
| | 2000/12/31 | ドルンハイム バルトロメ教会(バッハが結婚式を挙げた教会) | | モテット6番奉納演奏 | |
| | | アルンシュタット バッハ教会(バッハが最初に職を得た教会) | | ジルベスタ・コンサート出演 モテット6番 BWV171 | |
| | 2001/1/1 | アイゼナハ ゲオルグ教会(バッハが洗礼を受けた教会) | | 新年礼拝にてクリスマスオラトリオ4部の一部を演奏 | |
| | 2001/1/2 | エアフルト シャウシュピールハウス(バッハ一族の本拠地) | | 「口短調ミサ曲」演奏会開催 | |
| | 2001/1/3 | ナウムブルグ ヴェンツェル教会(バッハが理想とするオルガンが現存) | | モテット6番奉納演奏 | |
| | 2000/1/4 | ハレ マルクト教会(ヘンデルが学び、バッハの息子が活躍) | | 「口短調ミサ曲」演奏会開催 | |
| | 2000/1/5 | ライプツィヒ 聖トーマス教会(バッハが晩年の27年を過ごした聖地) | | 木曜日のモテットミサ演奏担当 モテット6番, BWV171 | |
| | 2000/1/6 | ライプツィヒ 聖トーマス教会(バッハが晩年の27年を過ごした聖地) | | 金曜日のモテットミサ演奏担当 モテット6番, BWV65 | |
| | 2001/4/22 | バッハ「復活祭オラトリオ」BWV249 カンタータ BWV80、モテットBWV228 & 230 | 三澤洋史 | 藤崎美苗 / 永島陽子 西垣俊朗 / 初鹿野剛 | アクト中ホール |
| | 2003/2/23 | バッハ「ヨハネ受難曲」 | 三澤洋史 | 西垣俊朗 / 小原浄二 藤崎美苗 / 永島陽子 / 初鹿野剛 | アクト中ホール |
| | 2005/9/25 | 創立20周年記念コンサート バッハ「マタイ受難曲」 | 三澤洋史 | 植木紀夫 / 長谷川顯 / 藤崎美苗 / 永島陽子 初鹿野剛 / 浜松少年少女合唱団 | アクト中ホール |
| | 2006/12/23 | バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部 | 三澤洋史 | 大谷知佳子 / 朴 璞実 西垣俊朗 / 西垣俊紘 | カトリック浜松教会 |
| 2007/11/10 | 「とってもバッハな午後をあなたに」 バッハ [カンタータ140, 147 ミサ曲A-Dur] | 三澤洋史 | 飯田みち代 / 渡部菜津美 神田豊尋 / 塩入功司 | 福祉交流センターホール | |
| 2010/1/17 | 創立25周年記念コンサートNo.1 ヘンデル「メサイア」 | 三澤洋史 | 國光ともこ / 三輪陽子 大槻孝志 / 初鹿野剛 | アクト中ホール | |
| 2010/12/23 | 創立25周年記念コンサートNo.2 バッハ [マニフィカート Es-Dur] 他 | 三澤洋史 | 大谷知佳子 / 三輪陽子 西垣俊朗 / 河野真剛 | カトリック浜松教会 | |
| 2012/10/20 | 浜松のバッハ40年記念 バッハ「ミサ曲口短調」 | 三澤洋史 | 國光ともこ / 三輪陽子 畑 儀文 / 初鹿野剛 | アクト中ホール | |
| 2015/4/19 | 創立30周年記念コンサート バッハ「マタイ受難曲」 | 三澤洋史 | 畑 儀文 / 大森いちえい / 國光ともこ / 三輪陽子 / 塩入功司 / 浜松少年少女合唱団 | アクト中ホール | |
| 2017/6/18 | 「J.S.バッハの系譜」- I ハイドンとモーツァルト バッハ「モテット1番」/ハイドン「テ・デウム C-Dur II」 モーツァルト「レクイエム」 | 三澤洋史 | 飯田みち代 / 森 季子 大久保亮 / 能勢健司 | アクト中ホール | |
| 2019/4/7 | 「J.S.バッハの系譜」- II ベートーヴェン バッハ「カンタータ182番」/「モテット2番」 ベートーヴェン「ミサ曲ハ長調」 | 三澤洋史 | 飯田みち代 / 三輪陽子 寺田宗永 / 大森いちえい | アクト中ホール | |



2001年1月6日、世紀の変わり目にも実施したドイツ演奏旅行中のライプツィヒでの模様。まさに大バッハが礼拝演奏を繰り広げていた聖トーマス教会の聖歌隊席で、新年のカンタータを演奏した時の写真。当時のトーマス教会カントールであるピラー氏やヴォルフ牧師から祝福を受ける三澤洋史率いる、浜松バッハ研究会合唱団と管弦楽団。
※本年はバッハが聖トーマス教会カントールに就任して、丁度300周年でもあります。

演奏曲: J.S. Bach ・カンタータ 66番、171番 ・モテット6番 BWV230
指揮: 三澤洋史
独唱: 藤崎美苗 / 山下牧子 / 望月哲也 / 初鹿野剛
合唱: 浜松バッハ研究会合唱団 / 豊橋バッハアンサンブル
管弦楽: 浜松バッハ研究会管弦楽団、コンサートマスター: 北川 靖子

「浜松スコラ・カントルム」を想う

櫻町 俊二

浜松医科大学に合唱部が産声を上げたのは、今を遡ること47年前、産みの親は、3期生で現在浜松リハビリテーション病院院長の藤島一郎氏でした。藤島氏は平凡な学生の音楽活動に甘んじることなく、指導者を求めて奔走し濱田徳昭氏に出会います。そしてこの指揮者を迎えたことにより、医科大学の小さな合唱部は、大いなる飛躍の道を歩むこととなります。

合唱部は、濱田先生から“歌の学校”を意とする「浜松スコラ・カントルム」と言う名前を頂き、大学サークルの枠を超え、他校の学生や社会人を巻き込んだ地域の音楽グループへと成長していきました。1980年濱田先生の下で初めて取り組んだ曲が、バッハの「教会カンタータ」3曲でした。バッハという古典を一流の音楽家から学ぶということは、私共にとって刺激的な経験でした。器楽との合奏も初めての経験で、ピアノ伴奏では到底得ることのできない、バッハの音楽に直に触れる感動を受けました。翌年の課題はヘンデルの「メサイア」。ここで全53曲という大曲に挑戦することになります。浜松カトリック教会で行われた演奏会では、ハレルヤコーラスで全聴衆が立ち上がり、観客と一体になる感動的なステージを経験しました。そして翌1982年、濱田先生率いる日本オラトリオ連盟の全国の各グループの課題曲はすべて「ロ短調ミサ曲」に統一され、私共も右に倣うことになりました。今思えば経験の浅い私共には、いささか無謀な挑戦でした。当時の私たちは「ロ短調ミサ曲」がいかなる難曲であるかも知らず、ただついでに行くのみでした。しかし、この挑戦のおかげで、浜松スコラ・カントルムと日本オラトリオ連盟と交流が盛んになり、私を含む一部団員は、東京や他の地域の演奏会に参加し、究極はヨーロッパ公演に参加するという幸運を掴むこともできました。4年目はバッハ「ヨハネ受難曲」が与えられました。これまでソリストは団員からの選抜で賄ってきましたが、ここで初めてプロのソリストをお招きしての本格的な演奏会となりました。

その後、浜松スコラ・カントルムは濱田徳昭氏の下を離れることとなります。一息ついて学生らしい活動に戻り、時代の流れの中で徐々に人数を減らし、数年後に活動を終了するに至ります。身の丈を超えた指導者を迎えて精一杯背伸びをし続けた5年、私は幸運にもその期間に在籍していました。それから40年が経ち、そのときの学生たちはそれぞれの道を歩み、すでに多くは還暦を迎えているはずです。今振り返って、あの経験が人生を歩む自信となり、その音楽が自分の支えとなったと感じているのは、私だけではないと確信します。

私は浜松スコラ・カントルムの活動を自分のホームページに載せていて、これが浜松バッハ研究会を率いる河野氏の目に留まり、今回の演奏会への参加のきっかけになりました。40年前の“歌の学校”での活動が、私をバッハへと再び導いてくれたのです。浜松でのバッハ演奏50年という記念の年に、ロ短調ミサ曲を歌える機会を得てこの上ない幸せです。今回の機会をくださった皆様方、そして浜松スコラ・カントルムへ感謝を込めて歌いたいと思います。

医療法人社団 エスケアー



桜町クリニック

外科・内科・小児科・消化器科・病児保育室

浜松市浜北区道本28-3

(遠州鉄道 美園中央公園駅より徒歩5分)

TEL (053)585-3213

「ロ短調ミサ曲」への憧れ

座光寺 哲

この度、浜松バッハ研究会の2023年度公演、バッハ「ロ短調ミサ曲」のプログラムへ寄稿させて頂くという、身に余る機会を得ました。研究会代表の河野氏からは「日本オラトリオ連盟の思い出」というお題を頂戴致しましたが、当時の私は、大学合唱、社会人合唱へも参加し、東京、弘前、豊橋へと演奏に出かける日々。記憶がないまぜとなつて、今となつてはオラトリオ連盟の記事を抽出して書くことができません。

私は1978年に浜松医科大学へ入学し、合唱部へ入部しました。大学の学食へ向かう廊下の途中にある吹き抜けで、美しく響いていた団員の歌声は今でも忘れる事ができません。

翌年には二期先輩にあたる藤島先生とご縁があった、バロック音楽の第一人者である故濱田徳昭氏を指導者としてお招きして、浜松スコラ・カントルムが発足しました。濱田先生は「浜松ポリフォニカ・アンブロジーナーナ」、その兄弟団体であった「豊橋ポリフォニカ・グレゴリアーナ」を指導されていました。以来1980年バッハの「カンタータ」、4番、182番、140番(演奏順)、1981年ヘンデルの「メサイア」、1982年「ヨハネ受難曲」、1983年「ロ短調ミサ曲」と怒涛の学生時代ならぬ、合唱時代を送る事となりました。大学の学食で最初に響き渡ったカンタータ4番のアンサンブルが出した音。まさにカルチャーショックでした。濱田氏が指導されていた弘前、東京、浜松、豊橋、尾道、北九州の団体が東京で一同に会して演奏する際に「日本オラトリオ連盟」と称していた訳です。当時まだあった東京オリンピックの選手村で、日本オラトリオ連盟が合宿をした時に発声された「マタイ受難曲」。驚愕でした。これまた私の合唱人生の一里塚となりました。濱田先生はメサイアとロ短調で二度に渡りヨーロッパ公演に連れて行って下さいました。あの時に援助して下さいました方々への御礼を忘れた事はありません。

その後の私は研修医として忙殺される毎日。一時合唱から離れたと思ひ込んでおりました。この度、河野氏から演奏会のお誘いがあった時に、送って下さったプログラムを拝見して驚きました。私は浜松バッハ研究会の1985年の初回公演「クリスマスオラトリオ」と1988年の「マタイ受難曲」でソリストを任されていました。今では教会で練習していた日々をまざまざと思い起こせますが、恥じ入るばかりです。

2000年に御前崎市で内科医院を開業してからは、地元のコール・マリーンという合唱団に参加させて頂いていました。その合間にモンテヴェルディ、ベートーヴェン、モーツァルトと東は国技館、西は九州の日田市まで出かけてオラトリオを歌っておりました。コロナ禍が来るまでは。

それでも私の頭から離れなかったのが本日、演奏されるバッハの「ロ短調ミサ曲」です。人類が生んだ至高の芸術だと思っています。「死ぬまでに一度は歌いたい」が口癖のようになっていました。その機会を与えて下さった河野氏への感謝の言葉はとも言い尽くせるものではありません。

最後になりましたが、浜松でバッハの火を燃やし続けて下さったバッハ研究会の方々、アンサンブルの方々、なによりも三澤洋史先生に深く感謝をいたします。

そして、豊橋での練習に毎回自家用車で乗せて行って下さった、故青木繁光氏、弘前の「ロ短調」で苦楽を共にして下さった故小貫勇作氏に本日の演奏を捧げたいと思います。

内科・小児科・消化器内科

座光寺医院

| 診療時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日・祝 |
|-------------|---|---|---|---|---|---|-----|
| 8:30~12:00 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | / |
| 15:00~18:00 | ● | ● | / | ● | ● | / | / |

御前崎市白羽 5243-3 TEL (0548)63-3206

合唱団メンバー募集

きょうの私たちの演奏は如何でしたか？
バッハは非常に難解だと思われるかもしれませんが、実際に歌ってみると、
とても自然で親しみやすい音楽です。あなたも一緒に歌ってみませんか？
合唱経験の有無は問いません。家族での参加、遠隔地からの参加も歓迎します。

2023~25年 練習予定曲目

G.F.ヘンデル

「メサイア」

J.S.バッハ

「ヨハネ受難曲」

浜松バッハ研究会・合唱団

練習日：第2・第4日曜日14:00~16:30

会場：浜松市 東区 積志協働センター 他

会費：月額 2,000円

連絡先：河野 周平 ☎053-585-3364

豊橋バッハアンサンブル

練習日：毎週金曜日 20:00~22:00

会場：豊橋市 新川小学校 音楽室 他

会費：月額 1,500円

連絡先：安井 研一 ☎0532-47-0676(留守電設定)

<http://hamamatsu-bach.sakura.ne.jp/>

このコンサートにご協賛・ご支援いただいた方々

公益財団法人 静岡県西部しんきん地域振興財団 様

公益信託 チヨタ遠越準一文化振興基金 様

(公財)浜松交響楽団 岡部比呂男 様 浜松市合唱連盟 玉川昌幸 様

今村 陽子様 株式会社 Stella 様 (株)知久(知久屋) 様

皆さまの温かいご支援に対し 心から御礼申し上げます。

塗装のことなら

(有)天竜塗装

創業58年。

外壁リフォーム
その他

塗装のごことは
お任せ下さい!!



〒431-3306

静岡県浜松市天竜区船明 800-2

TEL: 053-922-2877 FAX: 053-922-2878

E-mail: tenryu-tosou@cy.tnc.ne.jp URL: <http://tenryu-tosou.jp/>

Illustrated by Reika

全日本空手道連盟・和道会

杉浦錬成塾

代表 杉浦大祐

■支部名

○杉浦錬成塾 ○浜松和道館 ○浜松アリーナ ○浜松スポーツセンター
○向井道場 ○自清会 ○社会保険センター ○深谷スポーツセンター

〒430-0831 静岡県浜松市南区御給町 186番地

TEL (053)425-2686 FAX (053)425-2313

豊橋バッハアンサンブルを応援します

三宅税理士事務所

豊橋市 三ノ輪町字本興寺1番地の1

豊橋バッハアンサンブルを応援します

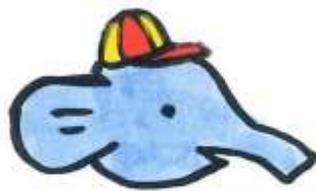
有限会社 シライ商事

豊川市 諏訪西町 2-257-1



未来は、あそびの中に。

株式会社ジャクエツ 浜松店
 静岡県浜松市中区佐鳴台 1-13-5
 TEL 053-453-0535 FAX 053-453-0777



KOBAYASHI KIDS

小林きつず社



代表 小林 勉

〒431-1304 浜松市北区細江町中川 7172-1560 TEL・FAX 053-523-0590

浜松ヒルズ少年少女合唱団

- ♪ボイストレーニング
- ♪外国曲は原語で指導
- ♪外国文化も学びます
- ♪楽典の指導もします
- ♪指導者：河野真剛他



練習日：毎週 日曜日 9:30-11:00
 練習場所：浜北区内野台コミュニティー会館他
 対象年齢：年長さん以上、高校2年生まで
 会費：1回あたり 500円

連絡先：053-585-3364(かわの) kawanon@music.tnc.ne.jp

こどもの本、おもちゃ、家具、遊具 販売

浜松こどものとも社



浜松市北区三方原町 1364-5
 TEL 053-576-1632

<https://www.kodomanotomo.info/>

御会合、御待ち合わせにご利用下さい。
 コングレスセンター(ドリンク・お弁当・パーティー)
 ケータリングサービスしております。



〒430-0928 浜松市 中区 板屋町 111-1
 アクトシティ浜松・中ホール隣 TEL (053)451-0187

一般眼科診療・緑内障診療・コンタクト診療



休診日(木・日・祝日)
 火曜日(午後・手術)
 浜北区小松 694 TEL(053)584-3000

乳がん検診・精密検査

胃カメラ(鼻・口)

Mori 森クリニック

院長 森 克昭



入野町 旧雄踏街道沿い
TEL.053-448-5109
<https://mori-breast.com/>



たちばな
橘 整形外科
クリニック

整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科

院長 鈴木 祥浩

浜松市中区幸1丁目15-3 幸メディカルビル1F
Tel. 053-412-0550 tachibana-seikai.com



医療法人社団 歯輪会

長谷川歯科医院

〒430-0927 静岡県浜松市中区旭町11-1 プレスタワー 8F

TEL 053(454)8812

<http://www.hasegawa-implant.com/>

日本イエス・キリスト教団 **浜松真愛教会**

- ・ 〒433-8105 静岡県浜松市北区三方原町 1054-2
- ・ TEL 053-571-8332
- ・ FAX 053-571-8332
- ・ MAIL hamamatsu.shin.ai@na.commufa.jp
- ・ 牧 師 杉山俊一 (主管牧師)、杉山美代子
- ・ 定期集会 教会学校 日曜日 9:30~10:00
礼拝 日曜日 10:30~12:00
祈禱会 木曜日 10:00~11:30

「私たちには、御父の御前で弁護してくださる方があります。

それは、義なるイエス・キリストです」(聖書)

弁護士 平野好道

名古屋市中区錦 1-20-25 広小路 YMD ビル 7F

弁護士法人草野法律事務所

電話 052-203-5305

Fax. 052-203-8118

e-mail: yhirano@abelia.ocn.ne.jp

バッハアンサンブル名古屋 第16回演奏会のご案内

開催日：2023年6月18日(日)

会場：三井住友海上 しらかわホール

曲目：J.S.Bach カンタータ

☆第 12番 「泣き、歎き、憂い、怯え」

☆第117番 「讚美と栄光 至高の善なる者にあれ」

☆第123番 「いと尊きインマヌエル、虔(ただ)しき者らを率いたもう君侯(きみ)」

☆第 72番 「すべてはただ神の御心のままに」

指揮： 畑 儀文

合唱・管弦楽： バッハアンサンブル名古屋

主催： バッハアンサンブル名古屋

合唱団員募集中です。詳しくは下記 HP からお問い合わせください。

<http://bachnagoya.sakura.ne.jp/>

好評発売中

クレアシオン

音楽の味



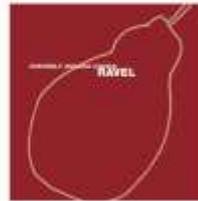
バッハ **パッサカリア**
パッサカリア、トッカータとフーガ
ニ短調、変
CRT-1100 ¥2,750 (税込)



バッハ **24のプレリュード**
24のプレリュード、イタリヤ協奏曲集
変曲集
CRT-1200 ¥2,750 (税込)



バッハ **ゴルトベルク変奏曲**
CRT-1300 ¥2,750 (税込)



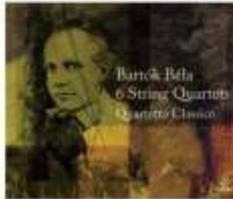
ラヴェル **ピアノ協奏曲/ツイガース/マ・ヌール・ロア/ラ・ヴァルス/クーブランの墓**
他
CRT-1875/6 ¥2,530 (税込)

川原千真



バッハ **無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ・パルティータ全6曲 (2枚組)**
CRT-3100/1 ¥4,400 (税込)

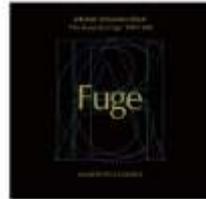
古典四重奏団



バルトーク **弦楽四重奏曲全集 (全6曲) (2枚組+解説CD)**
CRT-2100/2 ¥4,400 (税込)



ショスタコーヴィチ **弦楽四重奏曲全集 (全15曲)**
CRT-2201/5 ¥9,900 (税込)



バッハ **フーガの技法**
CRT-2622 ¥2,200 (税込)



ベートーヴェン **6.12 発売予定**
弦楽四重奏曲全集 (全16曲)
CRT-2301/11 ¥16,500 (税込)

川原千真 (1st Vn)
花崎淳生 (2nd Vn)
三輪真樹 (Vla)
田崎瑞博 (Vc)

Japoneira



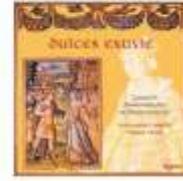
宮沢賢治 作詞作曲
「星めぐりの歌」による変奏四重奏曲*,
変奏二重奏曲**
古典四重奏団、川原千真 (Vn)**,
田崎瑞博 (Vc)**
Jpmr-001 ¥3,300 (税込)



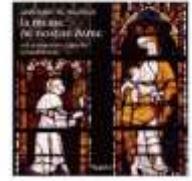
**ヴォーカル・アンサンブル
オペラ**



幼子が生まれた!
〜ルネサンスのクリスマス・ミサ
RGCD-1006 ¥2,750 (税込)



ディドーの嘆き
〜あるルネサンス写本の物語
RGCD-1008 ¥2,750 (税込)



ギヨーム・ド・マショー
ノートル・ダム・ミサ
RGCD-1013 ¥2,750 (税込)



清けきおとめ
RGCD-1017 ¥2,750 (税込)



ジュスカン・デ・プレ
ミサ曲全集 第1集
ミサ (聖父の母にして娘)
ミサ (他人を愛するなど)
RGCD-1027 ¥2,750 (税込)



ジュスカン・デ・プレ
ミサ曲全集 第2集
ミサ (フェウラ公エルコレ)
ミサ (ランフォルメ)
RGCD-1029 ¥2,750 (税込)



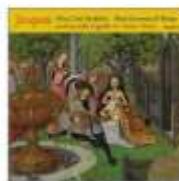
ジュスカン・デ・プレ
ミサ曲全集 第3集
ミサ (パンジェ・リングダ)
ミサ (私はもはや)
RGCD-1031 ¥2,750 (税込)



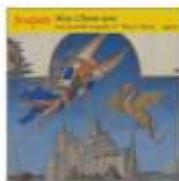
ジュスカン・デ・プレ
ミサ曲全集 第4集「運命のミサ」
ミサ (フォルトナー・デスベータ)
ミサ (不幸が私を襲い)
RGCD-1033 ¥2,750 (税込)



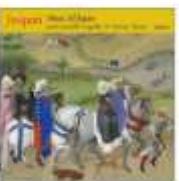
ジュスカン・デ・プレ
ミサ曲全集 第5集
ミサ (デ・ベアータ・ウィルジネ)
ミサ (アヴェ・マリス・ステラ)
RGCD-1037 ¥2,750 (税込)



ジュスカン・デ・プレ
ミサ曲全集 第6集「歌劇ミサ」
ミサ (ラミ・ボーディション)
ミサ (ビスケーの娘)
RGCD-1039 ¥2,750 (税込)



ジュスカン・デ・プレ
ミサ曲全集 第7集
ミサ (ロム・アルメ)
種々の音高による、第6巻法の
RGCD-1045 ¥2,750 (税込)



ジュスカン・デ・プレ
ミサ曲全集 第8集 カノン
ミサ (アド・フーガム)
ミサ (シネ・ノミネ)
RGCD-1047 ¥2,750 (税込)



ペーター・トムシカ
トキエンシス



オルランド・ディ・ラッソ
マタイ受難曲
RGCD-1051 ¥3,190 (税込)

Regulus

発売・販売: Regulus Co., Ltd. <http://www.regulus-classics.com/>
お求めは全国有名レコード店、またはレグルス regulus.classics.jp@gmail.com まで